

## サーチライト With Pastor Jon 創世記9章 パート3

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。

どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

**「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7**

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

.....

神はここで政府に関して、「これが、人間による統治の土台、基本的根拠だ。」と宣言しました。

信じ難いかもしれませんが、それが死刑制度の基となっています。

今日の社会では度々議論されていますが、神は、「これが基だ」と言っているのです。

学者は討論し、哲学者は論議し、政治家は右往左往しているけど、世界中の一般の人々は、社会を維持する上で死刑が必要なことを直感的、本能的に理解しています。

**その心に囚ることがみな、いつも悪に傾く (創世記 6:5)**

だからまさに、死刑が抑止力となる。

逆にそれなくしては、今の世はもっと混沌としたものになるでしょう。

そのため、現在、欧米で最も拡大し、急成長している宗教がイスラム教なのです。

ロンドンと言えば大聖堂や修道院といったイメージですが、去年 (1996 年)、ロンドン市内のイスラム教のモスクが、キリスト教の教会の数を上回った事を知っていますか？

1996 年の時点でモスクが教会よりも多くなった。

それは、ここ数十年の内にロンドンで、欧米文化で、私たちの文化が失ってしまった組織や規則が切望されているからです。

イスラム文化では、犯罪は非常に厳しく罰せられます。

たとえば、万引きで捕まれば、腕を切断されて二度とできないようにされる。

もう一回はできるかも。でも、その後は二度とできない。

もし男性が性犯罪で捕まったなら、彼は二度とできなくなる。

イスラム教徒は、とても直接的に、永久的に、そして…効果的に対処するのです。

それほど大変厳しく罰するので、彼らに任せた方がいいかもしれませんね。

イスラム文化では、人が殺人を犯したら、旧約聖書から、つまり旧約聖書を基にコーランに書いてある通り、直ちに、そして公に死刑が行われます。

それで人々は、死刑が犯罪の抑止力になっていることを、イスラム文化の中に見出したのです。

さて、問題はここからです。

実際のところ、我々が既に決定してしまったように、死刑を廃止し、「今までのような刑罰はもうしない」と言う国では、第一級殺人（\*計画的・意図的殺人）犯は、ただ刑務所に入れられるだけ。

現在は、第一級殺人罪で平均 17 年。そして釈放。

こういうことは、どの国であっても、全ての政府にドミノ式に影響していきます。

かつては、聖書のみことばを土台に据え、その教訓や戒めを理解していた国で第一級殺人を犯したなら、加害者も死ぬことが要求されたものでした。

そうなる強姦罪、レイプ犯は 15 年、17 年、18 年、20 年間の服役。

万引き犯、泥棒は 10 年間の服役。などなど。

それが今日のように刑を減らして、第一級殺人犯にも死刑を要求せず 15 年の服役で済むとなると、強姦罪は？

現在、全犯罪の刑罰が軽くなっているから、強姦罪は恐らく 5 年の刑務所暮らしでしょう。

万引きは刑務所に 6 か月。

このように全て減刑され続けると、その結果、歴史的に必ず起こっていることは何かを調べてみて下さい。

死刑が廃止になるに従って、全ての犯罪に対する刑が軽減されていき、もう間もなく、世はそのツケを支払うことになるのを思い知るでしょう。

もう既に、全てが、ひどく捻じれ始めています。

神はここで宣言しました。

「ノアよ、我々はもう一度、やり直していく。

そこでわたしは、あなたたち人間に、世を統治する特権と責任と義務を与える。

その土台は、『人が殺人を犯したら、その者は殺されなければならない。』

これが全ての基本となる。」

「ジョン、現実を見ろよ！」「勘弁してよ。」「それは旧約聖書のことだよ。」

新約聖書のローマ書 13 章でパウロが言っていることをよく見て下さい。

### 1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。

**神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。**

上に立つ権威とは、単純に、権力ある立場の人、最高権力者のこと。

パウロは「人はみな、上に立つ権威に、政治的に従わなければならない。」と言いました。

恐らく皆さんは、クリントン夫妻やブッシュ夫妻、彼らの周辺の誰かを想像して、「あの人たちに!?!」「止めてくれよ。」「何ですって!?!」などと言いたいでしょ。

でも、聖書、神のみことばが、「神の命令なしには、彼らもその立場に立てないのだ」と言っているのです。

「そんなことはない！今の政治家は違うだろう！」「めっちゃくちゃで、崩壊しきっているあの政治家たち。」

「この国の政治家なんて、とんでもないヤツらばかりさ。」

「くだらない事ばかりやって、何もできちゃいない。まったく！」

皆さん、パウロがこの章を書いた時に世を支配していた権力者は、非常に興味を起こさせるリーダーでした。

その名は“皇帝ネロ”

彼が弄んだことについて言うと、ネロはローマ市街に火を点け、市全体を燃やすように命じました。

気性の激しい政治家で、市街地が焼き払われている間、自分はバイオリンを弾いていたとも伝えられています。

ネロは、再建築したいがためにローマを破壊した張本人であると今では解明されていますが、その時は、大火事の責任をクリスチャンになすりつけました。

そうして、ものすごい迫害の波がクリスチャンを襲います。

ネロはクリスチャンを捕まえ、熱い蠟（ロウ）の中に入れ、自宅の庭で彼らに火を点けて“人間たいまつ”にしました。

「奴らは『世の光だ』と言ったんだ！」と言いながらクリスチャンを燃やしたのです。

また、戦車にクリスチャンを括り付け、体を上から下まで引き裂きました。

クリントン夫妻のことは好きじゃないかもしれませんが。

だけど、あなたの観点や政治信条がどうであろうと、皇帝ネロが統治していたこの時代よりは、はるかにマシなはずですよ。

皇帝ネロ。こんな人物のこんな時代にあっても、パウロは言いました。

### ローマ書 13章 1-3

#### 1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。

神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。

#### 2 したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。

従う者は自分の身にさばきを招きます。

これは地獄へ墮ちるというのではなく、神が許した権力機構に従うなら、あらゆる問題の裁きを自分自身に不必要に招くと言っているのです。

#### 3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。

権威を恐ろしいと思いたくなければ、善を行いなさい。そうすれば、権威から称賛されます。

支配者とは、まさに規則や法令を施行する権限のある人たちのこと。

皆さんが、権限を実行する警察官を恐れるのはどういう時ですか？

制限速度 45 マイルや 50 マイルの道を、時速 35 マイルや 40 マイルで走っている時、警察を恐れますか？

いいえ。ただゆっくりと走行するでしょう。

では、恐れ、緊張し、警戒するのはどんな時ですか？

制限速度 40 マイルや 50 マイルの道を、55 マイルや 60 マイル、70 マイルで走っている時でしょう。

途端に警戒を強めて、辺りを気にしたりする。

数年前、近所を車で走っていた時、ほんの少しだけ、ほんとにほんの少しだけ、ちょっとだけ制限速度を超えてしまいました。

それについては論争の余地があるのですが、前のフォルクスワーゲンの時で、今のフォルクスワーゲンになってからは、もうしていません。

それはともかくとして、その時はスピード違反で、バックミラーを見たら、確かに警察がライトをチカチカさせ、サイレンを鳴らして追ってくる。

路肩に寄せられ、免許証を求められたので見せると、警察官が「あなたは…あなた、牧師じゃないですか？」

私は「やった！」と思って、「そうです！ あなたもそうじゃないですか！」

そして、この箇所を読み上げました。本当です。

#### 彼はあなたに益を与えるための、神のしもべなのです（ローマ 13:4）

「ローマ書 13章によると、お巡りさん、あなたも神のしもべなのです。」

注意だけで済むかと思ったら、きっちりと切符を切られましたけど。

でも実際、とても興味深い。

ローマ 13:4 には、警察は神のしもべだと書いてあります。

警察の制服を着た人、特殊部隊の車両に乗っている人々は、主が許可し、主によって、その位置に置かれているのです。

だから、「警察は、主のしもべとして尊重されるべきだ。」とパウロは言いました。

次回、警察官を見かけたら、そんな風に呼んでみると良いかも。

ただし、私は試したけど、上手くいかなかったから気をつけて。

それはともかくとして、**ローマ 13章 4節**

**彼はあなたに益を与えるための、神のしもべなのです。**

**しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れなければなりません。**

**彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。**

**彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います。**

あなたが悪いことをしているなら、動揺し、恐れがあります。

警察官は良いことをするために、そこにいるのです。

もし警察官がいなくなったら、それでもここに住みますか？

法を守る権力のない場所に住みたい人はいますか？

恐らく誰もいないでしょう。

この箇所が示すように、法を守る警察や統治がない所に住みたい人はいません。

**彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います。(ローマ 13:4)**

これは、ノア契約に関連する重要な聖句です。

ギリシャ語学者や聖書教師は、“怒りをもって報いる”を、近年まではそのままの意味で解釈してきました。

警察など法の施行機関は、適切に決められた刑【死刑】を当然受けるべきとして、正確に解釈してきました。

この概念は、旧約聖書だけではなく新約聖書にも生きており、それは、聖書の言語を誠実に考察する者にとっては揺るぎないことです。

私は人がこう言うのを聞いたことがあるから、皆さんもそうでしょう。

「ちょっと待って。イエスならどうするだろう？」

ヨハネ 8章。

姦淫で捕まった女性に対し、石を手にした人々が、どのようにイエスの所に来たか知っていますよね。

イエスは言いました。

**「女のよ、わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。**

**これからは、決して罪を犯してはなりません。」(ヨハネ 8:11)**

イエスも死刑を支持しなかった!?

モーセの律法によると、姦淫の罪で捕まったなら、姦淫に関わったなら、男も女も両方とも、石打ちの刑に処されます。

イエスはどうしましたか？

「その通り。モーセも“石打ちにせよ”と言った。だからそうすれば良い。**あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。(ヨハネ 8:7)**」

そう言って、地面に何か書き始めましたね。

これに関しては以前にお話しましたが、イエスは石を手にした男たちの名前を書いていたと思います。

彼らの名前の横に女性の名前、日付、ホテル名なども。

なぜなら、彼らは一人ずつ石を置いて去って行ったから。

イエスは「死刑なんてダメ！ ダメダメ!!」とは言わず、こう言ったのです。

「その通り。正解だ。さあ、死刑を始めよう。

**あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。(ヨハネ 8:7)**

そしたら、彼らは去って行った。

心に留めて欲しいのは、この時イエスは、彼らの行動が正義感からではないことを全て知っていたという事。

どうしてそう言えるのか？

彼女は姦淫の最中に捕まえられた。ということは相手の男がいたはずです。

姦淫には二人いないといけない、ということは分かりますよね。

そこで問題は「男はどこにいる？」

彼女が姦淫の現場を押さえられ、そして、彼らが正義のために彼女を捕らえたのなら、“男はどこだ？”

彼らは法に触れる事としてではなく、イエスを罠にはめて、恥をかかせるために行ったのです。

ということで、イエスは「ダメだ。死刑にするな。」とは言わず、彼らの目的を見抜いて、「分かった。それなら始めよう。**あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。(ヨハネ 8:7)**

その時、彼らは去って行き、イエスは女性を助けました。

彼らが義も、良い統治も求めなかったから。

イエスを罠にかけ、恥をかかせるために仕組んだから。

私はヨハネ 8 章を、死刑廃止や刑罰の軽減のために用いるべきではないと思います。

なぜなら、イエスは、「その法は、もう破棄するつもりだ。」とは言わず、「その通りだ。やりなさい。この事に関して正しい規定があるのだから。わたしにはあなた方の本当の目的が分かっている。」と言ったからです。

このことから、よく考えなければなりません。

神は、この創世記 9 章で宣言しました。

『誰でも人を殺す者は、その者も殺されなければならない。』

「それは律法だ！ 律法主義だ！」と言うでしょう。違います。

これは、律法ができる前のことです。

モーセの律法ではありません。

ここでは、まだモーセの律法は与えられていないのです。

これは律法ではなく、ノアに与えられた契約の原則で、大洪水後の新しい世界のためもの。

その有効期限は…この世が火で滅ぼされるまで。

ノア契約は神による契約であり、世を支配する勢力が終わる時まで有効です。

これが神のみこころ、神のみことば、神の計画なのです。

神の食料規定、それから規律。続いて宣言。

**「見よ、わたしは、わたしの契約をあなたがたとの間に立てる。そして、あなたがたの後の子孫との間に。」(創世記 9:9)**

12節で「これが契約のしるしだ。これからわたしが結ぶ契約はこれだ。」

**わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それが、わたしと地との間の契約のしるしである。(創世記 9:13)**

ステキですね。雲の中に弓。虹！

空に虹がかかるたび、それを見て、契約はまだ有効なんだと分かります。

ところで、虹とは何でしょう？

面白い事に、それは嵐と水分と太陽光の混合物です。

特にイイと思うのは、弓形の虹の美しさが、嵐とそれを突き破る太陽との組み合わせであること。

虹は神の恵みや栄光の象徴として、しばしばみことばの中に表されています。

皆さんが嵐のただ中において、そこから抜け出そうとしている時、Sun (太陽)、つまり Son (息子) イエス・キリスト

(\*sun と son は同じ発音) が射して来ると、たちまち物事が色づき、美となって、そこには疲れもない。

たとえ、嵐の残骸が残っていたとしても、そこには栄光と美がある。

「主よ、あなたはここにおられる。嵐の中で私と共にいて下さった。嵐の中でも私を見ていて下さった。」

Son (御子) が打ち破るのです。

面白いと思うのが“弓”

弓という言葉は、ヘブル語でも同じように、戦士が使う弓、“弓矢”の弓の意味です。

虹には、弓はあるけど矢はありません。

ラビの教えによれば、「矢は既に放たれた。」

すなわち、矢は既に射られており、二度と人間に向けて放たれることはない。

お天気お姉さんがエルニーニョ現象とか、何を言おうとも、世界が大洪水で流し消されることはない。

地球温暖化や海面上昇など、誰が何を言おうとも、それは絶対に起こらない。

大洪水が世を破壊することは二度とない。

なぜなら、矢はもう射られてしまっているから。もう終わってしまった。

だから、弓はそこに置かれているが、矢はない。

私はこの詩的な表現が大好きです。

神は宣言しました。

「そう、これが事実だ。わたしはこの契約を全ての世代に宣言する。

あなた方は空に虹を見るたび、“二度と同じ形で世を滅ぼすことはない”というわたしの契約を思い出す。」

これが、ノア契約です。

つづく

**思い違いをしてはいけません。**

**神は侮られるような方ではありません。**

**人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。(ガラテヤ 6:7)**